



山崎  
曉  
あ  
し  
全

特 別  
~13  
4312  
1



米の無時あなときの飽あき山の風流かぜりゆうも獨身ひとりごの學まなのガベガベ。おもしろんころれへの  
 身みとりのその女よめ郎らう花はなと愛あい見み。依よ形かたち胡こ盧ろと画ゑくよこころに  
 彫う蟲むし小せう技ぎの片かた手て業わざ翼よくあけて飛とりの。いづれの作者さくしやとらうらの枝えだと連つて  
 兄弟あにがた第だいが。稱なづ史しは虚まじ名なとひきか。紫むらさ女を地ぢ獄ごく。羅ら氏し産う兒ご嘆なげ息いき无な。  
 あつたまを肩かたは天てん秤はかり棒ぼうのおとと解とく。曾そは与よ一いつ兵へい衛ゑ財さい布ふの糸いと。  
 の由よし良よし殿どのの仕つか居ま風ふう雅やでまき編あ述じゆ。まを。まの米こめ推おす。  
 今年ことしも例れいの板いた元もとの初はつ鳥とり。いづれか。権けん。まを。まの米こめ推おす。  
 不ふ精せいかひをうして。豆まめ月つきも腹はら編あ。まを。まの米こめ推おす。  
 浦うら里らと娘むすめより。の昔むかし次つぎ舞まひと舞まひ。まを。まの米こめ推おす。  
 立た賣うの。新あらた居ま涼すず仙せん書しょ屋やの。書かき方かた。まを。まの米こめ推おす。

壬申 隔月

山

識



昨日遊  
花街傾  
數盃  
今日  
入折  
經吟  
一句



羅氏編水荷傳  
三代  
生啞兒  
四山  
東北  
晴  
女  
毒



紫式部源氏  
物語  
地獄  
墮

石書  
神錢論  
無翼而飛無足  
而走解嚴毅  
之顏開難敷  
之口  
君四國依叙言  
之故事全  
原圖

















あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

たつた  
たつた  
たつた  
たつた  
たつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた



あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

上のごまを人男のさそとてあつたかゝるものゝ  
 これいはいがやちめつりし月をたあてえい  
 ちりめいぬのぢりくまがひこさひあひのてと  
 よういさばてさうあててさうらうしとていん  
 ちりめいぬのぢりくまがひこさひあひのてと  
 よういさばてさうあててさうらうしとていん  
 ちりめいぬのぢりくまがひこさひあひのてと  
 よういさばてさうあててさうらうしとていん



ちりめいぬのぢりくまがひこさひあひのてと  
 よういさばてさうあててさうらうしとていん



ちりめいぬのぢりくまがひこさひあひのてと  
 よういさばてさうあててさうらうしとていん







五

わんまは  
いかにて  
ふんまを  
おんまは  
あんなを  
おんまは  
いかにて  
ふんまを  
おんまは

いかにて  
ふんまを  
おんまは

あてしん  
つりて  
いかにて  
ふんまを  
おんまは



中

いかにて  
ふんまを  
おんまは

いかにて  
ふんまを  
おんまは  
あてしん  
つりて  
いかにて  
ふんまを  
おんまは  
あてしん  
つりて  
いかにて  
ふんまを  
おんまは  
あてしん  
つりて  
いかにて  
ふんまを  
おんまは







